

「がん患者の薬に関する認識と薬局に対する意識調査」

¹(株)メディカルファーマシーミキ薬局 若松町店

²東京女子医科大学病院 地域連携室

³東京女子医科大学病院 薬剤部

○長久保 久仁子¹ 下村 裕見子² 伊東 俊雅³

【背景・目的】

ミキ薬局では数年前まで、がん患者に対し「余計なことを言って治療の妨げになってはいけない」「質問されたくないのではないか」等の理由から積極的なサポートを全く行っていなかった。しかし近年、外来にて化学療法をうけるがん患者が急速に増え、院外処方箋に経口抗がん剤が処方されることが多くなってきた。そのような中で薬局が十分なサポートを行わないことに疑問を持ち、2010年6月より、東京女子医科大学病院の薬剤師の協力のもと薬薬連携を強化し薬局薬剤師による、がん患者のサポート方法を検討し実施するようになった。これまでは薬局薬剤師がどうしたらがん患者のサポートを行えるかを中心に検討していたが、本当に患者の為のサポートとは何かを再検討するため今回の患者アンケート調査を行った。

【方法】

東京女子医科大学病院門前にあるミキ薬局4店舗にて実施。

期間：2011. 8.29～2011.9. 30の約一か月

対象：処方箋、薬歴から疾患名が「がん」とわかる患者

アンケートの依頼方法：処方箋受付後待合室にて個別に依頼

【結果】

回収67名中がん患者57名（大腸がん9名、乳がん19名、胃がん4名、肺がん3名、膵がん3名、肝がん2名その他がん種5名、がん種不明12名）

【考察】

薬に関して質問しやすい職種として薬剤師よりも医師が上回っている結果から薬局でも相談しやすい環境を構築しアピールする必要性を感じた。薬局薬剤師に質問されることに対して不快に思わない患者が8割近い結果から、がん患者に対して今後も積極的にサポートを行っていきたい。抗がん剤に対する知識も大切だが、それ以前に患者に正しい薬の服用方法を再確認することの重要性も感じた。今回の調査結果を今後の薬局業務に役立て、がん患者を含め患者ごとに総合的にサポートできるように努めたい。